

JARA活動歴・職能歴とともに超ベテランであり、他団体での活動も含めて視野広く業界を見ていらっしゃる湯浅氏。関西地方での仕事環境、日頃の業務形態・展望、また関西でのJARAの活動について語っていただきました。

関西という環境で



湯浅禎也 ゆあさよしや
(株)コラムデザインセンター 制作部部長

1962年 大阪府生まれ
1983年 大阪デザイナー専門学校卒業
大阪デザイナー専門学校非常勤講師
JARA関西支部長
大阪府優秀技能者表彰“なにわの名工”受賞

学校でも手描きパースを教えてますが、最終的に卒業課題になるとほぼCGになっていることに少し寂しさを感じます。私も仕事では70%はCGになりましたが、より的確に伝えるプレゼン方法のバリエーションを覚えて欲しいと思っています。



関西空港の手描きパース飛行機のプロポーションに悩まされた思い出があります。

関西という環境で

この業界に足を踏み入れて30年目を迎めました。私がパースを始めた頃はまだパースという職業は世間からの認知度も低く、パーツとかバースとか言われた頃でした。協会も私の師匠世代の方達も若く、世間への認知度を上げようと躍起になっている時代でした。その後すぐに“バブル”と呼ばれる時代に入り、建築の業界は踊り一気にパースレンダラーと呼ばれる人たちが増えたように思います。こういった環境の中、私もパース漬けの日々を送っていました。

JARAに入会したのが28歳の頃ですでの、かれこれ25年になります。入会後比較的早い段階から関西支部の理事を仰せつかり、全国のメンバーの方と交流させていただき、パースの変革期とともに成長させていただきました。

もともと透明水彩や不透明水彩という手法がメインでしたが、重点がエアーブラシの手法に変わり、その後CG/パースへと移行してきましたから、現在も発注の主旨、プレゼンの方法、意匠の傾向を見極め、表現の方法を変えて対応しております。そしてそれが現在の私の強みになっているような気がします。

関西、大阪という環境で仕事をしていく感じることは、関東、とりわけ東京に比べて業界の規模が小さく、仕事の絶対数が少ないということです。若い頃、東京のゼネコンさんから仕事を頂いた時の話ですが「大阪支店は西日本全体を相手に仕事をしていますが、東京本社は世界を相手に仕事をしますから」というお話を聞き、東京の大きさを実感したのを記憶しています。よく大阪は中小企業の街と言われますが、中小の設計事務所、工務店、ゼネコンの数はそこそこあるように思います。それだけ細かい仕事もたくさんあり、クライアントの声にあわせ、様々なプレゼンに対応していかなければ、この仕事はやりにくいような気がします。

手描によるスケッチ、CGによるプレゼン等々、関西のメンバーは対応できる方が多いと思いますが、そういう多様性を関西という地域が要求しているような気がします。中国、四国、福岡を除く九州などはさらに絶対数が少くなるので、パース一本での業務は難しくなっているというお話はよく聞いております。

JARA関西支部

若い時期から、JARAという協会にある種のステイタス、あこがれというものを持っていましたから、比較的早い段階で入会させていただき、関西支部の理事として活動させていただきました。一時は250名のメンバーが所属した時期もありましたが現在はコンパクトになり、100名を切ってしまいました。

私が所属している他の協会、団体もメンバーの数が減り高齢化しているところも多あります。世代が変わり協会、団体の意義や意味も変わりつつあり、柔軟に対応していくないと自然消滅という最悪の結果が来ると思っています。

関東支部は近年新しいメンバーの方も入会され活性化が進んでいると思いますが、関西支部は少し停滞しておりますので、勉強会や支部会等の親睦の場を作り、活動を共にする新しいメンバー獲得に努めたいと思っております。やはり協会には若い新しい人材が入り活性化しないと、楽しくないですからね。

様々な地域の人と交流、親睦が図るのは協会の大きなメリットだと思っております。関西支部はメンバー同士の仲が良く、業務のやりとりも活発に行ってます。同業者の集まりですから、あるときはよきライバルであり、あるときは心強い仲間という、いい関係が築けていると思ってます。

この記事を読まれた方で興味をお持ちの方は迷わず声をおかけください。



ガラスや金属が建築に多用された1980年代エアーブラシによる表現が増えています。



不透明水彩によるパース



CGパースが主流の今日ですが、かつては不透明水彩やエアーブラシで描かれたパースが花形の時代がありました。自分自身は不透明水彩で描かれたパースが好きでこの世界に足を踏み入れたものですから、寂しい限りです。現状CGメインになりつつありますが、水彩のパースの発注もまだまだ残っています。特にここ1,2年の傾向として、発注側が建築の仕事の流れの中での使い分けが出てきるように思います。CGも一通り行き渡り、手描きなのか、VRなのか、リアルタイムレンダリングなのか、次の時代に向け新しい表現が求められてくるでしょう。



透明水彩によるスケッチ/パース

コラムデザインセンター

私が所属しておりますコラムデザインセンターは代表が関西支部の宮後浩氏で、会社創立が1972年ですから、今年で43年目になります。パースの組織事務所としてはかなりの老舗になつきました。

一時期は35名のスタッフで業務を行つきましたが、時代の流れに沿つて今現在は8名で業務しております。

10年ほど前から、ある年数以上のものは経営者感覚を持って業務をこなすという方向で社員を離れて独立採算制を導入し、スタッフ各個人が個人事業主という形をとつております。これからまた時代が変わっていくでしょうから、時代に沿つて各々が業務しやすい環境を常に考え変革を繰り返していく、そんな事務所になっていくことを望んでおります。

同時にコラムデザインスクールというパースの学校も宮後学長の下で行っております。手描きパース教育を基本に、コンピューターによるプレゼン教育まで行つております。

一時期生徒の数も減つておりましたが、最近は手描きを勉強したいという方が増えている傾向にあるようで、生徒数も増加傾向あります。CGオブリーの方も今一度アナログ感覚を養うことは、いい勉強になると思います。

社団法人パーステック協会というのもあります、こちらも恩師宮後浩が理事長を務めていますが、パース検定を実施し、物の立体感覚をすべての世代の人に体得してもらおうという主旨のもと活動しております。今年から私が教えている生徒にも授業の一環で全員受験させます。こちらも興味のある方は、ご相談ください。

JARA、パースのこれから

協会発足からJARAには、パースという職業の社会的認知度を高めようという目的がありました。しかしそれも時代を経て役目を終えようとしているように思います。

これからは、よりグローバルな視点を持ち、後身の育成、業界の発展に重きをおき、活動をしていきたいと思っております。われわれレンダラーはオペレーターになってはいけない、それを肝に銘じ、日々研究、勉強して行かなければならぬと思います。

日頃学生達にも「決して便利屋になってはいけない、しかし頑固になってはいけない」「相手の

コラムデザインという核の下、個人個人が自分の気持ちを読み取る」「コミュニケーション能力を身につけること」「学生時代だからこそできる手描きなどの基礎的能力を身につけること」を指導しております。しかし自分もそうであったのですが、若さゆえそういうことになかなか気づかないもので、教えることの難しさを感じております。JARAという協会なら、その事を時代と共に経験されたプロの集団ですから、若者達に指導できるのではと可能性を感じている今日この頃です。



CGによるパース